



# 汚物凝固材（アクセスクリーン）。。 これ以上、携行品を増やさないでくれ！

7月、支社内全乗務員に「汚物凝固剤（アクセスクリーン）なるものが配られました。

これは汚物発見時の初期対応（応急処置）として、乗務員が汚物の上にこれ（チップ状の薬）をふりかけ固め、駅での清掃に引き継ぐというものです。

ブツは15cm×20cmほどのジブロックに小分けしてあり、厚みは3~4cmほどです。

ここ数年の内に、あれやこれやと携行品ばかりが増やさされ、

同時にそれは一時紛失といったリスクにもつながり、実際に発生している現状です。

異常時対応だと考えれば、この薬品を使って処置すること自体はさほど問題ではありません。が、これを持ち歩き、他の携行品同様、失くさないよう神経を使うこと、これが労働強化ではないかと考えます。

どう考えても、列車の運転台にでも配備しておけば、数も大幅に少なく済むし、コスト

習志野運輸区班より  
緑川徹さん(運転士)送別会  
日時：9月28日12時~  
場所：津田沼駅北口つば八  
参加希望者は、9月20日まで、各班長に連絡のこと。

削減にもなります。しかも失くす必要もなく、とっさに使えるはず。それ以前に、そんな余計な金を使ってまで、必要な物とは到底思えません。。。

実はJR本体とCTSの労働協約の関係で、運転台の配備は出来ないとのこと。

私たちも交渉などの際は、ルールや法規を重視しなければなりません。が、たったこの程度のことでもう少し臨機応変にパッと動けないもんかなと思いますが、どうでしょうか？

## 蘇我運輸区班、 第1回班会議開催

8月28日(月)11時半より、蘇我かめやで分会結成後、初めての会議を行いました。

出席は醍醐、鈴木、竜崎の3名です。たった3名!?でも良いんです、やってれば!

かめやは月替わりランチがあり、8月は海鮮丼とカツカレーのセットでした。蘇我でお降りの際は是非お立ち寄り下さい。



# うたてつ ノススメ③

花嫁 (はしだのりひことクイマックス) 1971年1月

①花嫁は夜汽車に乗って  
嫁いでゆくあの人の  
写真を胸に海辺の街に  
命かけて燃えた  
恋が結ばれる  
帰れない 何があっても  
心に誓うの

②小さな鞆に詰めた  
花嫁衣裳は故郷の丘に咲いてた  
野菊の花束  
命かけて燃えた  
恋が結ばれる  
何もかも捨てた花嫁  
夜汽車に乗って  
夜汽車に乗って。。。

作詞は「戦争を知らない子供たち」「あの素晴らしい愛をもう一度」「白い色は恋人の色」等々、大ヒットを連発していた北山修（精神科医、臨床心理学者というもうひとつの顔も）。曲はリーダーのはしだ。軽快なイントロのギターは我が国屈指のフォークギター奏者の石川鷹彦によるものらしい。

花嫁になる日を目の前にして、希望や期待以上に切実な不安感が詞から読み取れてしまう。

「花嫁衣裳は。。。野菊の花束」というフレーズに、本物の花嫁衣裳は着れない、誰からも祝福されない、すなわち駆け落ちであることが伺える。夜通し走り続ける汽車の中で、ずっと不安と希望の入り混じった時間を過ごす主人公の励みが「花嫁という言葉」「あの人の写真」と「野菊の花束」というのがあまりにも切ない。山や川をいくつも越えた海辺の街で、絶対幸せをつかんでほしいと

願わずにいられない。「帰れない」「命かけて」「何もかも捨てた」。。覚悟の歌だが、曲調はあえて明るく希望を持たせてあるのが救いだ！ボーカルの藤田ミエの圧倒的な歌唱力も聞きもの。歴史に残る名曲中の名曲！